

◆チャールズ・ブロンソンである。ようやく思い出した。俳優のブロンソンなのだ。今、例の *raccomandata* でひと騒ぎした郵便局にいる。居所に一番近いから、というだけでなく、最初にここを訪れた時から一つだけ気に入っていることがあるのだ。この局で窓口業務をしているのはまさに皆、映画俳優なのだ。もちろんこれは私の主観以外の何ものでもないのだが、初見でそう思ってしまった。

誰がいるかという、西日本で病院に「宿泊した」という極めて小さな、しかし話題の広がる旅の土産話をした彼、ブロンソン、というよりブロンソンを減量させて鬚をそったブロンソンである。またトータル・リコールという映画に出ていた(名前は知らないが)体格のよすぎる女性に似ている彼女は、そのままトータル・リコールと呼んでいる。加えてエリザベスという映画に脇役で出ていた年配のちょっとふっくら気味の女性似の彼女は、エリザベス。そして何より映画エイリアンで主役を張った女優(名前を失念)を彷彿とさせる長身の女性については、彼女をエイリアンと読んでいます。すべて心の中でだが。

今日の窓口の配列は、向かって左から、エリザベス、ブロンソン、トータル・リコール、エイリアン。四役そろい踏みは壮観の一言。エリザベスとブロンソンは、今日は郵便受付。トータル・リコールは振込業務。エイリアンは郵便貯金業務を淡々とこなしている。彼らを眺めることが自分の順番待ちの間の楽しみなのだ。

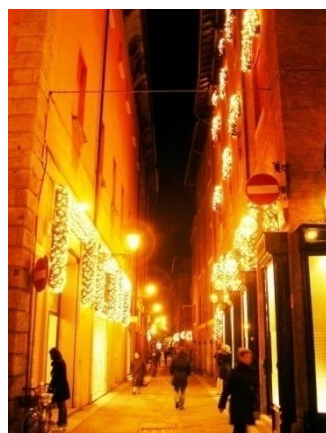
またブロンソンが例の話をしているようだ。盛んに *Giappone, Giappone* といって、聞いている客はヘッ〜などと言っている。彼の十八番なのだろう。エリザベスはいつもの如く非常に速いイタリア語でまくし立てている。イタリア人も聞き返すくらいだから、確かに早口なのだろう。トータル・リコールは客が高額紙幣を出したらしく、お釣りをかき集めにあちこち動き回って、ついに50€札の束を持ってきた。私が *raccomandata* で粘った相手がこのトータル・リコールである。で、エイリアンはというと、彼女がいつも一番落ち着きがあるようで、粛々と業務をこなしている。さすが宇宙飛行士(映画の中でだが)。

さて私の番だ。日本に郵便小包を二つ送らなければならない。ブロンソンが担当だ。決して笑い顔には見えない笑顔を見せて、私の持参した小包を秤にかける。一つが1.6kg、もう一つが3.8kgだった。両方とも航空便で、とお願いしたが、航空便はひと箱2kgまで。それ以上だと船便になるという。仕方がないので最初の一つだけ航空便でお願いし、あとは箱を二つ購入し、翌日重さを分散して持って来ることにした。1.6kgの航空送料で26€を請求された。かなりの高額であるが仕方がない。翌日は二つで50€~60€を覚悟しなければ。

ついでにといったら語弊があるが、私の荷物を量り終わるとたん、ブロンソンの業務用コンピューターが動かなくなった。秤と送り先とを連動させて料金等を自動的に算出するようだが、全く動かない。この事態にブロンソンだけでなく、エリザベスもトータル・リコールも口や手を出す。ついにエイリアンも登場。あれこれ皆でいじっていたが、結局はダメ。その間ブロンソンは私に *Raccomandata Internazionale*(国際郵便書留)を書くように指示。結局、秤との連動は諦

めてコンピューターだけ回復。手動入力で業務をこなすことになった。**Raccomandata Internazionale** に印字された料金を見たら 29€。どうして 26€になったのだろう。不思議であるが、それにも慣れた。この間、郵便局の業務は一時中断。それにも慣れた。30 分くらいの中断には慣れてしまった自分に驚きつつ、残った箱を抱えて帰宅した。

◆午後 5 時くらいになると、もう外は暗い。街の中心を歩いていると、なにやら光る道があった。徐々にクリスマスの準備を始めているのだ。店にイルミネーションを施したり、クリスマス用の小物が売られ始めている。**Piazza Maggiore** には、大きなテントらしきものが設置されつつある。何が始まるのだろうか。もう少し経ってみないと分からない。



周りの状況が変化すると、これまで見ていたものの意味も変わってくるようだ。お菓子屋さんのケースに今までと同じ小さな **dolcetto** が山積みで売られているが、これまでは単なるお菓子、でもクリスマスまでの期間は、クリスマス用の特別なお菓子のように思えてしまうから不思議だ。人間の認識など、環境の変化でいかようにでも変えられてしまうのだろう。それは客観ではなく主観である。主観とはこれほどまでに脆い移ろい易いものなのだろうか。



山積み dolcetto

その一方で「その場に合う」という間主観的な問題も発生している。**Sala Borsa** でのお気に

入りの場所の一つに、一階の一番奥にある漫画コーナーのソファがある。漫画を読むだけでなく、そこが静かで人の通りもありなく、日当たりもよくて居心地が良いのだ。少し考え事をしたり、本を読む時に利用していた。しかしもうそのソファはない。大きなテーブルといくつかの椅子に置き換えられてしまい、学生と思しき若者たちが、そこで勉強しているのだ。

その理由には思い当たる節がある。いつもそのコーナーに行くと、常連がいたのだ。40 歳台位であろうか、いつも 2〜3 人が 4 つあるソファを占拠し、一応漫画の本を広げているが、実際は寝ているのだ。私は残りのひとつのソファに座って作業をしていたのだが、もうできない。彼らがまじめに漫画を読んでいれば、そのソファはそのままだったかもしれない。読むべき場所で寝ているという、その場に合わない行動が、居心地の良いコーナーを消滅に導いたのであろうか。別の日に行っても、Sala Borsa の職員が彼らをチェックしているのが、傍目にもわかる。彼らのことはどうでもよいのだ。これからどうすればよいのか。すこしショボンとして Sala Borsa を出た。



現在 Sala Borsa で展示

会が開かれている“L'Universo in Evoluzione: dal Big Ban alla Vita”(進化する宇宙：ビッグ・バンから生命へ)の展示物の一つ。初期の天体望遠鏡と、ESA が打ち上げた最新の Big Ban 研究用の衛星の一部(2009 年 11 月 9 日〜12 月 2 日まで)。

◆Vignola(ヴィニョーラ)へ行こう!と思い立った。Vignola とは街の名前だ。ボローニャとモデナを繋ぐ直線を底辺とする西側(地図でいうと左側)に向かって設定された平べったい二等辺三角形の頂点くらいに位置している街だ。私のよく読むブログで紹介された、とても静かで雰囲気の良い街らしい。行くなら午前中に出発しないと、今は夕方 5 時位には暗くなってしまう。早速インターネットで調べたが、suburbana というボローニャからの支線が走っている。しかし時刻表がない。その他には長距離バスが出ているのを見つけた。Bologna Autostazione からの 671 番あるいは 672 番のバスに乗ればよい。時刻表も出ている。これに乗ってみよう!っと思い立ったとたん、ゴミを捨てて、洗濯をしなければならないことに気づいた。しかも空腹だ。とにかくすべきことだけはしなければ、と思い、急いでこれらをかたずけた。さて出発だ。しかし

う時刻は 12 時を回ってしまっている。しかも外は曇りで、雨が降り始めるような気配もある。今日は土曜日。おそらく Vignola の店舗も閉まっているかもしれない。あ〜っ、これはダメだ。バスに乗っても片道 50 分はかかる。往復で 100 分。待ち時間を考え、日の落ちる時刻を考え、お天気を考えると、もう今日はやめておこう、という結論に至るにそう長い時間はかからなかった。何かを思い立ち、すぐにやめる、これもイタリアに来て身についたものだろうか。

せっかく着替えたのだから、せめて街(in centro)くらいは行こうと思い、電子辞書一つ持って部屋を出た。道には予想外に陽光が射し始めていた。

◆ひとりは良い。とにかく気楽である。誰にも気を使わず、気を使って人の話を聞く必要もないし、自分で話す必要もない。しばらく前は、知り合いを作ろうと思っていたが、今ではどうでもよい事のように思えてきた。もちろんこの段階に至るまでには多くの人の世話になりっぱなしで、その人達の存在とその人達への感謝は忘れない。またこの街に住み続けるならば、知り合いや大切な友人たちがいなければ生きて行けないだろう。人脈が命と云われている国だから。でも私のようにもうすぐ帰国する者にとっては、そのことは切迫性のあることではない。また、到着したてのところとは違い、何かあっても、イタリア語が分からないまでも何とか対処できるのでは、という根拠のない自信、勝手な思い込みに裏付けされていることも確かなような気がする。だから実際に問題が発生したなら、どうして良いか分からず右往左往するのだろうけど。bar で読んだ新聞には、ボローニャでも新型インフルエンザで 10 名が入院と大きく出ていた。とうとうこの街にも新型インフルエンザがやって来たのだ。そういえば、この頃のどが痛く、体がだるい。熱もあるような気がする。部屋が寒い。もし新型インフルエンザにかかってしまったら、一人が良いなどと言ってられない。皆さんのお世話にならなければならないし、隔離されて強制的に一人にさせられるのだろう。やはり人と係わりがなければ生きていけないのだ。でもとにかく今は思索をして、健康のために柔道場に通い、日々の食事をする、それだけで十分なのだ。あれほど頭を抱えていた英文和訳も、下訳段階だが、ようやく一応の OK がでた。これで気分がかなりすっきりしている。

今日も Feltrinelli に立ち寄ってみた。どうしても、読めもしないのに古典や哲学関係のコーナーに足が向いてしまう。ここには、アリストテレスやプラトンは勿論、多くの哲学者たちの著作がイタリア語に翻訳されて売られている。しかも日本と違い、原文との対訳形式が意外と多い。言語構造の相違や定価への反映の問題もあるのだろうけど、良いアイディアだと思う。しかし、日本で対訳本を見た時には、少し違和感があった。文字の相違であろうか。こちらで見ると、違和感は感じられない。どうしてなのだろうと思いながら眺めていると、カール・シュミットの『大地のノモス』のイタリア語版を見つけた。しかも最近新しく発売されたものである。大体 56€ くらいだった。欲しかったが、今の私には躊躇してしまう金額だ。でもこのような本、あのような本が今でも新刊で出版されていることに驚きを感じる。日本なら古本屋にしかないであろうに。また割引セールで安くならないかな、と淡い期待を持ちながら、何も買わずに店を出た。



◆ひとりは良いなど嘯いていた罰だろうか、金曜日の夜から、急に体調不良になった。それまで若干であるが咳が出て、胸が少し苦しかったのだが、冷たい空気のせいと思い込んでいた。それが急転直下の発熱と咳、息苦しさが襲って来たのだ。もちろん割れんばかりの頭痛もする。体温計など持っていないがこれまでの経験からかなりの高熱であることは確かだ。身体の節々が痛く、ベッドから起き上がる力もない。これは新型インフルエンザかもしれない。でもこちらの医療システムについては全くと言ってよいほど知らないし、大病院にでも行けばよいのだろうけど、着替えることもできないくらい身体が動かないのだ。大家さんをお願いしようかとも思ったが、新型インフルエンザであるかどうかとも分からず、ただの風邪で大騒ぎするわけにもいかない。ようやく日本から持参した総合感冒薬を飲んで、また横になり、一応、日本の家族に、連絡が取れなくなった場合の緊急連絡先をメールで送信したが、それで力尽きて眠りに落ちた。このような状態が金曜日の夜から、土曜日・日曜日と連続で続き、月曜日にもこの調子なら病院に行こうと考えていた。新型インフルエンザは基礎疾患を持っている人が危険と聞いている。私の基礎疾患は…太りすぎと何よりあまり頭が良くない…いやいやこれは基礎疾患ではなく、基礎欠陥なのだ。そう考えると少し気分が楽になる。

月曜日になった、なんとなく熱が下がって、身体が動くようになっている。ベッドから起き上がることができ、メールを見る力もわいてきた。まだ咳は若干出ている。完治していないのだろう。でもどうしても出さなければならない郵送物を郵便局から出し、まる二日間水以外はほとんど何も摂取していなかったの、バスに乗りマクドナルドに行き、il Mac という大きなハンバーガーを食べた。身体はまだフラフラしている。全体的にまだ熱っぽい、このままで行けば金曜日の柔術の稽古には間に合うだろう、と思っていたが、帰宅後、また横にならざるを得なかった。その影響で火曜日のイタリア語の授業を休んでしまった。動くには早すぎたのか。薬で症状が抑えられていたのだろう。一人が良いなどとは、全く何の問題もない、一瞬の間のことなのだと改めて思い知らされた。



◆水曜日になった。火曜日一日中寝ていたせいか、これまでで一番身体が楽である。これも薬で抑えられている可能性はある。でもこれ以上ベッドで横になっているわけにはいかない。金曜日の柔術の稽古には、物好きな連中が三々五々集まってくる。月謝と相殺されているとはいえ、一応、束収を受けているのと同じである。こればかりは休むわけにはいかず、代役もいない。そこ

で少しでも体に力をつけようと、冷蔵庫を見たら、トマトが一つ、ミネラルウォーター1本、齧り掛けのパン少々…力をつけるには物足りない。食物の役不足である。これは私がきちんと補充しておかなかったからだ。そこで Bassotto を思いついた。

カフェテリア式の大衆レストランで、Ugo Bassi 通りにある。平日のお昼時と 18 時半から開店。その名はダックスフントあるいはかなり背の低い、がっしりした、という意味だが、店名との関連が多少なりとも想像できるのは、この店は地下一階という「低い」ところにあること、そして一品の量が通常の大盛り位あり、体力を使う職業人達の御用達の店である点だ。内容から見ると安い。ゆえに昼時は一般の主婦や親子連れも非常に多く訪れている。



Ugo Bassi の銅像(顔)が向いてい方のポルティコの下にある。Bassotto の文字が左上の看板の光に包まれて見えないが、ここから階段で地下に下りてゆく。

いつもの 14 番バスに乗り、いつも下車する Rizzoli の一つ手前の Ugo Bassi バス停で降りた。ほんの少し Piazza Maggiore 方向に歩くと、ポルティコの右側に見慣れた入口がある。早速入って、まずしばらくご無沙汰だったので料金体系に変化がないかを確認。Menu(日本でいうセット)は、これまで通り 9€。ならば大丈夫と思い、2 品選んだ。



これは夕食のセット。Primo Piatto(選択)一皿、Secondo Piatto(選択)一皿、Contorno(付け合わせ)または Frutto(フルーツ)を一つ、Pane(切ってあるパン)一切れ、500mg のミネラルウォーター(ボトル 1 本)、合計で 9€。昼間もほぼ同じ。(持ち帰り可)。

今日はとにかく、体力をつけなければと思い、奮発して、**Secondo Piatto** と本来は **Contorno** になるはずのサラダを普通のお皿で一皿＝大盛り、水 500ml ボトル 1 本、合計 9.9€。ちょっと高かったが、まあ良しとしよう。しかしテーブルについて愕然。そうなのだ、量が多いのだ。特に **Secondo Piatto** は、骨なしの鶏肉を豚肉の脂身でまいて、他の野菜と一緒にトマトソースで煮込んであり、一つが大人のこぶし大。それが二つ。**Contorno** もキュウリとリンゴとハムの千切りを、塩とマヨネーズで和えたものだが、そこはイタリア、そのほかにたっぷりすぎるほどのチーズの千切りが混ざっている。これは重すぎる。しかし、頑張ってすべて完食。これまでほとんど何も入っていなかった胃袋が悲鳴を上げているのが分かる。その日は一晩中、胃が重苦しかった。でもこれで少しでも体力が回復すれば、と思う。

◆咳が止まらないので Coop にある **Farmacia**(薬局)で、マスク(**mascherina**)を買うことにした。薬局の人(薬剤師)に、風邪をひいて咳が出るのでマスクをください、と云ったら、はいっと渡されたのが下の写真の箱。



ひと箱 50 枚入り。5 年間有効と書いてある。

私は日本的感覚で 1～2 のマスクを買おうと思っていたのだが、この箱入りしかないというのだ。それならこの中から 3 枚ほどください、といっても、箱売りなの、これ以外にはないの、という。精神的に余裕があれば、別の薬局に行ってみたのだが、咳が止まらず、早くマスクがほしいという焦りからか、仕方なくひと箱購入してしまった。値段は 50 枚入りでひと箱 6.5€。マスク一枚当たり単純に 0.13€。これでは小売にしても儲けはないだろうな、と感じながらも、ひとつ開いてさらにびっくり。日本のような耳に掛けるゴムではなく、医者が手術の時に使うような長い紐式である。

自室にて、後頭部で上下を結んでも、そのままでは外出できるような感じではない。日本式のように耳に掛けるようにしたら、紐が長すぎて耳飾りを垂らしているような様子になる。どちらにしても使えない。残念ながら、家にいる時に使うことにした。外出時には、耳飾りににある部分をハサミで切るしかないだろうな、と思いつつ。これ一つをとっても、日本はいいなあ～とつくづく思う。

とにかく、今日も早く寝よう。まだ背中が痛いし、咳も出るから。

(続く)